めざす子どもの姿　かしこい子　あたたかい子　たくましい子

やさとっ子

四日市市立八郷小学校
学校通信
第　5　号
平成 26 年 7 月 9 日

７月に入り、梅雨らしい日が多くなってきました。７月としては最大級という台風８号の動きも気になります。昨日配布しました、「暴風警報等発令時の保護者のお迎えについて」の文書もよくお読みください。
１学期もあとわずかとなり、学習のしめくくりをしっかりしていきたいです。

コミュニティスクール拡大委員会

６月１８日（水）、ランチルームにて第１回八郷小学校コミュニティスクール拡大委員会が行われました。これは、10 名の運営協議会委員に加えて、10 名の拡大委員（実際の活動でお世話になる、各団体代表の方）、また学校側からも各部、各学年の代表が参加して行われるものです。学校側から、学校づくりビジョンの具体的な取組、また各団体と協働する予定の主な活動について説明をさせていただき、意見やご要望をうかがいました。これまでにも、たくさんの活動が行われていますが、今後とも、登下校の見守り、ゲストティチャー、また学習活動でのご協力など、いろいろな場面でお世話になります。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。
拡大委員会に引き続き、第２回運営協議会が開催されました。その中では、自転車の乗り方が気になるので、ヘルメット着用の呼びかけや乗り方教室の開催をしてはどうか。また、拡大委員会のメンバーが高齢化してきているので、新しく若い方も参加してらえるとよいのですが、といったようなご意見が出ていました。図書ボランティアやクラブ活動指導者などで、ご参加いただけます方があれば、代表の方か、小学校の教頭までお知らせください。

学び舎（や）音楽会

6 月 26 日 2 限目、体育館で「学び舎音楽会」が行われました。これは、子どもたちに、芸術文化の鑑賞機会を設けようという目的で、四日市市まちづくり公共事業団が主催するコンサートです。
今回は、和楽器演奏グループ「新いぶき」のみなさんに来ていただきました。「琴」お二人、「尺八」お一人、民話の語りお一人の4名による演奏でした。「春の海」から始まり、「さくらさくら」の演奏。続いて、「つるのおんがえし」のお話。スクリーンに絵が映り、和楽器の臨場感あふれる BGM にのせて、見事な語り口のお話に、子どもたちはどんどん惹きこまれていきました。その後、楽器紹介、「ビリーブ」、「さんぽ」の演奏。そして、最後のアンコールとして「世

界が一つになるまで」を、全校児童も一緒に合唱しました。これがまた素晴らしかった。始業式でも素晴らしいと思いましたが、今回はさらにレベルアップしていました。最後は 5・6 年生がきれいにハモり、全校児童の迫力ある歌声が体育館中に響き渡りました。聴いていて、自然と涙が出てくるような、ほんとに素敵な時間でした。最後に楽団の方にお礼を伝えると、「和楽器でこんなに盛り上がった学校はめずらしいです。」と言っていただきました。歌声は、八郷小の大きな自慢のひとつです。

スポーツチャレンジ大会

６月２７日の１・２時間目、児童会主催のスポーツチャレンジ大会が行われました。これは、４年生以上の各学級で計画したいろいろなゲームやスポーツに、きょうだい学級（１・６年、２・４年、３・５年）で１０人ほどのチームを組み、挑戦していくものです。「まめつかみ」、「ストラックアウト」、「ぞうきんがけリレー」「おばけやしき迷路」などなど、１６種類の種目が各教室や体育館で用意されていました。小さい学年の子は、お兄さんお姉さんと一緒に、次はどこへ行こうとワクワクしながら回っていました。ゲームを主催する高学年の子たちは、計画、準備、運営、片づけと、その時々にいろんな問題にぶつかり、それをみんなで解決しながら進めていったことと思います。子どもは任せてやると、自主的に生き生きと活動し出すものです。普段の学習活動の中でも、こんな場面を少しでも増やしていきたいです。

安全部会表彰

６月２０日、八郷安全部会が、四日市北地区防犯協会様、並びに四日市北警察署長様から表彰されることとなり、代表の竹内様に出席していただきました。感謝状の文面には、「貴部会は永年にわたり地域安全活動を積極的に推進し、児童の登下校の見守り活動に尽力され、安全で安心なまちづくりに多大の貢献をされました。ここに記念品を添えて深く感謝の意を表します。」とあります。本校児童の登下校では、本当に毎日お世話になっています。その功績が認められたことは、学校としても大きな喜びです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

お願い

児童の下校時、通院や習い事などで、臨時に子どもさんを車でお迎えに来られる方もみえます。そんなとき、親切心から、近くのお友達も一緒にということもあろうかと思います。しかし、そのことで、一緒に帰る児童がいなくなったり、少なくなる子が出てきたりということもあります。お気持ちはよくわかりますが、そのあたりもご配慮いただいた上で、お迎えは原則必要な場合に、自分のお子さんだけというようにしていただきたいと思います。子ども達にも、安易に同乗をお願いすることのないよう指導したいと思います。以上、よろしくお願いいたします。